

# 令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	49	学校名	恵那高等学校
------	----	-----	--------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	S T E A M教育や教科等横断的な学びを推進し、文理を融合した総合知を培う高校として全ての学校生活における探究的な学びを通して地域や国際社会に貢献できるリーダーの育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闘争にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する (1) 生きる知恵をもって社会でリーダーシップを發揮する生徒を育成する (2) 自ら問を立て「探究」する生徒を育成する。 (3) 心に故郷を抱き、世界を見据える生徒を育成する。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【G P】	『すべては「ときめきと感動」から』 ・生きる知恵をもって社会でリーダーシップを発揮する生徒 ・自ら問いを立て「探究」し続ける生徒 ・心に故郷を抱き、世界を見据える生徒	
	生徒をどう育てるか 【C P】	『一步踏み出す勇気』 ・知的なときめきを育む質の高い授業と「探究」する学びの場の提供 ・自己の生き方・あり方を考えられる多様な学びの場の提供 ・一人一人が輝き、仲間とつくる感動の場の提供	
	どんな生徒を待っているか 【A P】	『出会いを大切に』 ・基礎学力と基本的な生活習慣を身に付けた生徒 ・出会いを大切に、志をもって自分を伸ばそうとする生徒 ・大学進学を目指す生徒	
学校の抱える課題	・生徒の探究活動を支える授業改善（探究活動と授業の往還） ・生徒の主体的な意思決定を通じた積極的な生徒指導と教育相談の充実 ・生徒が自らの「探究活動」を具体的な進路探究につなげ、主体的な学習習慣の確立につなげることができる手立ての研究 ・自ら学び自ら探究する能力を身につけさせ、生きる力の育成 ・科学的・主体的に探究を深化させる探究者を育成する理数教育システムを構築と地域の理数教育の水準の向上		

年 度 目 標			
領域 分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標

領域 分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	年 度 末 評 価 (自 己 評 価)			
				取組状況・実践内容評価項目の達成状況等	評価 A, B, C, D	成果と課題	総合評価 A, B, C, D
学習指導	学習評価が、教員の授業改善と生徒の学習改善に効果的につながるよう、教科の特性・専門性を踏まえて研究を行う。「恵那高探究エレメント」を定めて活用することで、教科・科目の授業において、生徒の教科固有の力とともに汎用的な力の一層の育成を図る。	施策 II-8	学校評価アンケート、生徒による授業評価、教員同士の相互評価	・学習評価のあり方を見直す過程で、教科の特性・専門性を踏まえた議論を深めた。	B	○学習評価を改善することができた。教員の授業改善と生徒の学習改善に効果的につながるように取り組みたい。	A
	生徒に見通しを持たせ、主体的な選択をしながら学習に取り組むことができるよう支援する。	施策 II-8	探究エレメント生徒アンケート、学校評価アンケート、生徒による授業評価	・各教科で重点項目を定めて取り組み、生徒アンケートに基づく振り返りと改善点の洗い出しを行った。		○「恵那高探究エレメント」を用いて、教科の授業における「探究力」育成の形を作ることができた。ブラッシュアップしていくたい。	
	各教科で「恵那高探究エレメント」の重点項目を定めて授業改善に取り組むことで、教員相互の学び合いをより活発にする。	施策 IV-26	教員同士の授業参観、相互評価	・新入生オリエンテーション等の改善、学年集会等での意識の向上、科目選択等のガイダンスの強化を行った。		○学習指導や開講科目についての評価が軒並み上昇した。3年間を見通して位置付け直したい。	
	授業・自主講座の改善のため、昨年度（新課程一年目）の入試情報を積極的に収集・還元する。	施策 II-8	学校評価アンケート、生徒による授業評価	・教科ごとの重点項目を授業研究週間のテーマとして授業を実施し、授業研究会や生徒アンケートの分析を行った。		▲重点項目は研究授業や授業改善の指標として成果があったが、教員相互の学び合いをより活発にするには改善が必要である。	
進路指導	保護者進路研修会や学年主催保護者会を通して積極的な情報発信を行い、家庭と協力して最後まで粘り強く志望校に挑戦する生徒を育成する。	施策 I-7	学校評価アンケート、保護者による授業評価	・生徒対象の学校評価アンケートでは、進路指導に関わる項目は、A+Bの割合が3つとも90%を上回った。	B	○学校からの情報提供が役立っていると答えた生徒の割合が高い現状	A
	生徒の主体性を高めるための学習動画の活用を改善する。特に総合型学校推薦型対策の動画について、探究企画部と協力し、活用方法を工夫する。	施策 II-9	生徒の使用状況	・保護者対象の学校評価アンケートでは、進路指導に関わる項目は、A+Bの割合が2つとも90%を大きく上回った。		▲休日自主講座の在り方 ○情報発信に対する保護者の満足度が高い現状	
	恵那市中津川市主催の高校生合同企業説明会への参加を通して、地域を連携した進路探究を実施する。	施策 II-13	事後アンケート	・3年生スタディサプリ使用率が昨対比で131.7%であり、総合型学校推薦型の動画を中心に活用率が上がった。		▲対面の保護者会の参加者増に向けての対策 ○スタディサプリを用いての早期からの初期指導の実施	
	生徒が企画・運営するL H Rを、「いじめ」をテーマにして実施する。	施策 I-3	実施後の振り返り	・2月12日（木）実施予定。1年次全員が関心がある学間系統をもとに、参加する講座を選んだ。		▲志望理由書等の添削指導の効率化 ○外部の方の話を聞ける進路探究の機会の設定	
生徒指導	教育相談は、全体支援を目的とした予防的な企画を実施し、個別支援は早期に組織対応をする。	施策 I-3	全体会員の効果の検証（アンケート）	・10月に「いじめ」をテーマにして生徒が運営するLHRを実施した。	A	○担当生徒が、事前に担任・副担任と内容を検討し、準備をして当日の運営を行った。各クラスがそれぞれの方法で「いじめ」について考える時間となった。	A
	城陵祭活動の企画・運営を、集団や社会に参画し、人間関係を自主的・実践的に形成する機会にする。	施策 I-1	城陵祭実施後のアンケート結果	・学習の不安感の解消や協働的な学びの基礎を築くために、昨年度より始めた新入生を対象としたENA SCHOOL TIMEを今年度も実施した。		○昨年度の反省を活かして、期間や時間を工夫して実施した。生徒からは、スマーズに学校生活に慣れることができたという感想が多数であった。	
	城陵祭（体育の部）の屋内開催を実現し、持続可能性のある学校行事の1つについていく。	施策 IV-20	実施後の振り返り	・生徒会が中心となり、生徒が主体となって城陵祭活動に取り組んだ。		○事前準備から当日前まで、生徒が主体となって企画・運営することができた。来場者は2,000名を超え、生徒にとって非常に満足度の高いものとなった。	
	3年間を見通した探究活動の深化を図るために、他学年や他学科との定期的な交流機会を提供する。	施策 I-1	事後アンケート	・東濃ふれあいセンターの多目的アリーナを利用して、体育祭の室内開催を実施した。		○初めての試みであったが、昨年度より準備を進め、屋内開催を実現することができた。	
その他	地域課題へのグループ探究活動を通して、地域の魅力を仲間と再発見していく機会を提供する。	施策 II-8	事後アンケート	・他学年や他学科との交流は満足度が高く、特に「他者の発表や意見を聞く」という点で有意義な機会となっている。	A	▲交流会での発表時に資料準備が間に合わないグループがあり、スケジュールと教員のサポート体制の見直しを図る。	A
	探究に不可欠なメタ思考の基盤を築く。このために情報と探究を統合した科目を開発、運用する。	施策 II-9	年間指導計画の検証 指導案、教材の完成	・1年生普通科総合の「地域課題を解決しよう」では、8割以上の生徒が地域の魅力を発見できたと事後アンケートで回答した。		○今年度初めての企画である「地域課題を解決しよう」は、2年次以降の「生き方我が道」に繋がる探究的な学びの実践ができた。	
	問題発見能力、探究力、社会性を伸長する。このために協働的で自立した課題研究を実施する。	施策 II-8	内発的な研究テーマの数段階的評価とピア評価	・学校設定科目の年間計画を改訂して実施した。教材の更新を行い使用後に再度改訂を実施した。		▲年間指導計画の改定により課題研究を意識した学習活動となった。テーマ設定の深化について今後もよりよい方法を模索する。	
	・「高1ギャップ」に対する支援に加え、恵那高生が抱えると予想される躊躇感や不安感に対する全体支援を検討する。	施策 I-1	事後アンケート	・主体的な問い合わせを解決する科学的な研究活動を支援した。1年次生においては、問い合わせの発見と課題設定の指導を重点化して指導した。		▲2年次では単位数が2単位と増えたことで研究の進捗が改善された。今後は一層主体的に研究を進める計画の立案指導を改善する。	

来年度に向けての改善方策等	実施日：令和8年1月15日	学校関係者評価	実施日：令和8年2月5日
<ul style="list-style-type: none"> <li>「恵那高探究エレメント」をより利用しやすくなる改善ながら、「教科力」と「探究力」を育成する授業改善に取り組む。</li> <li>DXハイスクール事業をいかしながら、生成AIを含むICTの効果的な活用法や生徒への指導法の普及をはかる。</li> <li>生徒が1、2年次の探究活動の成果を志望動機書等の形で早期からまとめられるようにするために、時期や教材について見通しを持たせるためのロードマップを作成していく。</li> <li>・合同企業説明会を校内の恵那田舎塾や花の木セミナーなどと関連させ、外部リソースを生徒の進路探究につなげられる機会の充実を図りたい。</li> <li>・「高1ギャップ」に対する支援に加え、恵那高生が抱えると予想される躊躇感や不安感に対する全体支援を検討する。</li> <li>・体育祭の屋内開催を来年度も継続する方針であるため、今年度の反省点を踏まえた準備を進めしていく。</li> <li>・「生き方我が道」においてグループによる探究活動へシフトチェンジし、協働的な取り組みを推進していく。</li> <li>・地域連携型探究イノベーションハブを強化する。現在のサイエンスパークを基盤に、高校生が地域の中学生や大学と協働する事業や場面を増やし（年3回）、地域の理科教育の裾野を拡大する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究エレメントを実施することで、生徒が普段の授業を大切にするとともに、教員も授業と探究学習の往還を意識するようにしてほしい。</li> <li>・自治体や地元企業と連携し、地域課題に目を向けているところが新鮮である。</li> <li>・進路指導について個々の生徒に対してきめ細やかな指導できている。</li> <li>・地域の中学生は全国や世界に目を向けることが少なくなっていると感じる。大学説明会や本校の留学制度を活用し、大学や海外の魅力を伝えることが大切である。</li> <li>・生徒会Instagramによって、本校の魅力がよく伝わるようになった。生徒の発信力がついてきていている。</li> <li>・学校経営方針が明確であり、それにより生徒が自信を持って学習しているところがよい。</li> <li>・本校の魅力が中学校にも伝わり、より多くの地元中学生が本校を志望するといよい。</li> <li>・生成AIの普及により、生徒が自分自身で考える探究でなくなるのではないか懸念される。生成AIを適切に利用するとともに、これまでのように生徒が自ら考え、試行錯誤する探究学習を大切にしてほしい。</li> <li>・今後も地域や自治体、中学校と連携しながら、理数教育の拠点として、魅力ある学校づくりを進めてほしい。</li> </ul>	